

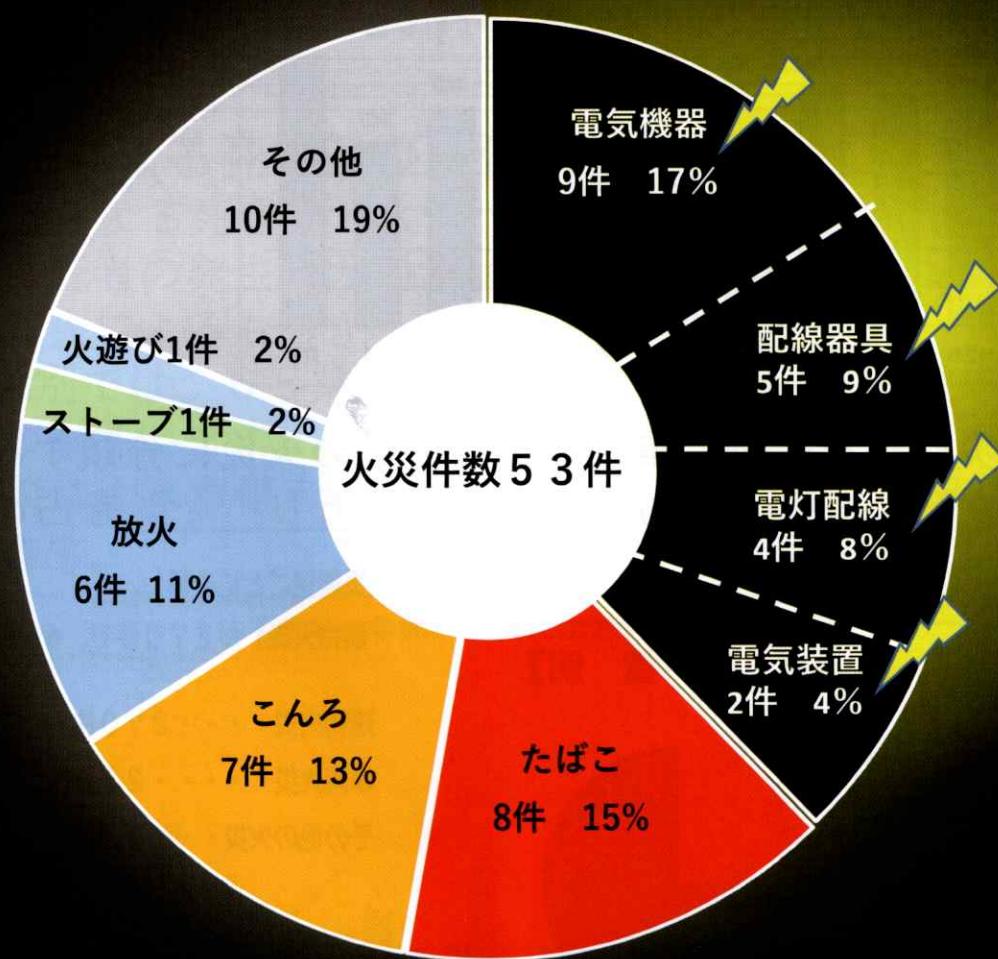
身边に潜む火災危険から

# 命を守ろう！



令和5年中の火災・救急件数等の概況について

多摩区内の火災原因のトップは、  
**「電気火災」**  
(20件 約38%)



区内・火災原因別件数（令和5年中）

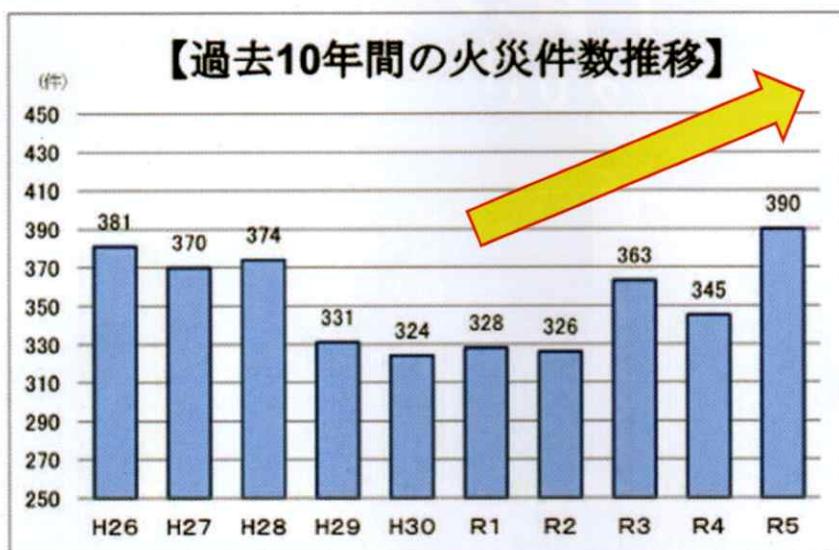
# 1 火災概要

## 令和5年中の火災・救急件数等の概況について（速報）

- 令和5年中の火災、救急及び119番通報の件数を次のとおりまとめました。
- いずれの件数も過去10年間で最多の件数となりましたので、引き続き火の元には十分御注意いただくと共に、救急車の適時・適切な利用に御協力くださいますようよろしくお願ひいたします。

### （1）市内火災件数

- 令和5年中の火災件数は390件で、令和4年中の345件から45件増加し、1日当たりの発生件数は約1.1件でした。また、過去10年間の平均火災件数は約353件となります。



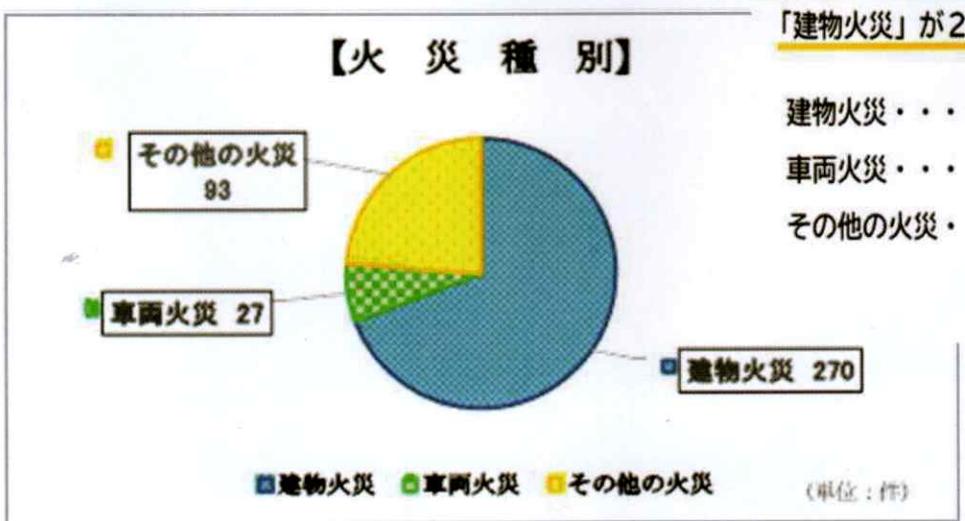
火災は増加傾向ですでの、注意が必要です！



- 火災件数を建物、車両及びその他の火災に分類すると、建物火災が270件と最も多く、全体の69.2%を占めています。

火災種別ごとにみると、

「建物火災」が270件で、69.2%を占める。



建物火災 ···· 270件

車両火災 ···· 27件

その他の火災 ··· 93件

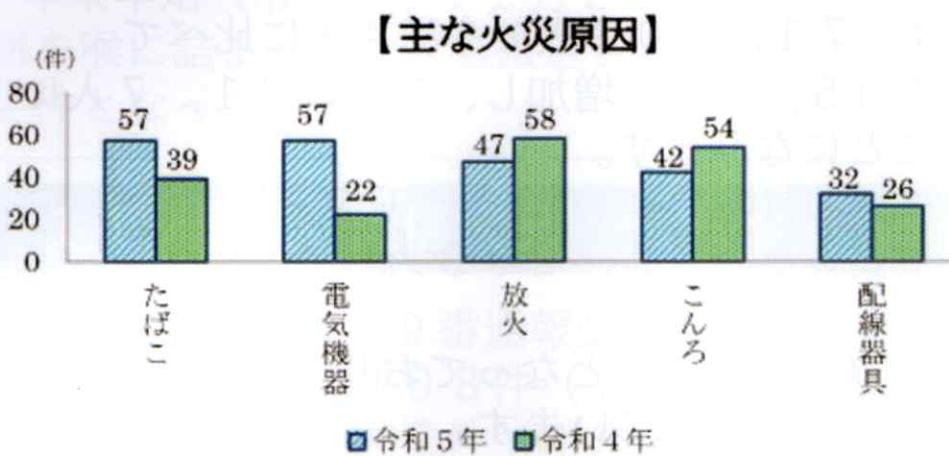


## (2) 火災原因

火災原因是、「たばこ」と「電気機器」がともに57件で1位、3位は「放火（疑いを含む）」で47件となっており、前年と比較すると「たばこ」は18件増加、「電気機器」は35件増加しており「放火」は11件減少しています。

### ◆たばこ火災を防ぐために

たばこを吸う時や捨てる時は十分に注意し、絶対ポイ捨てをしないなど喫煙マナーを守るよう心掛けましょう。  
たばこ火災は日頃の心掛けで防ぐことができます！

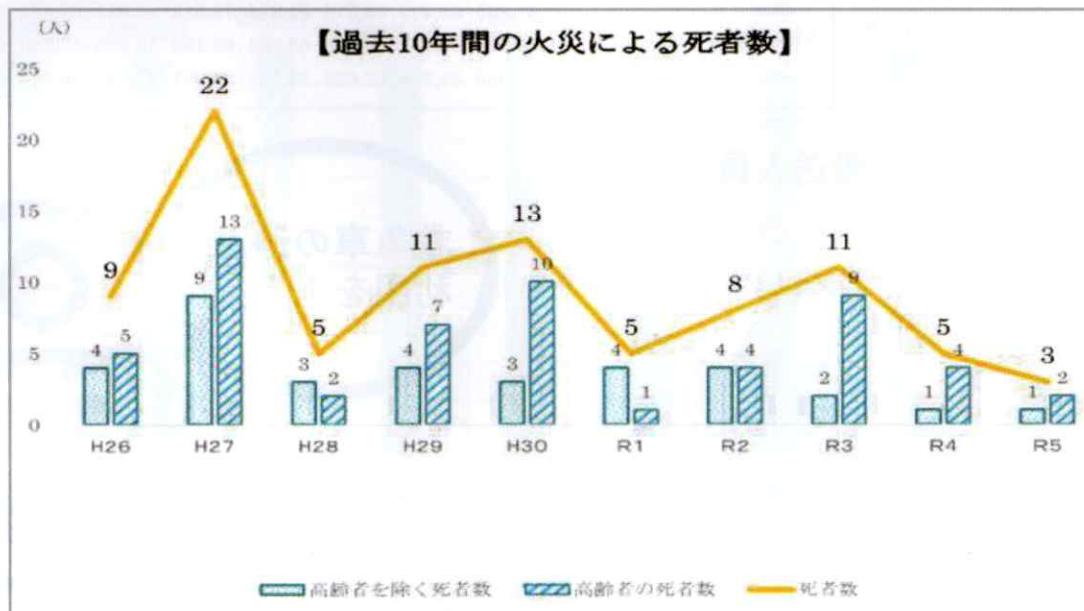


## (3) 火災による死者及び負傷者の状況

ア 火災による死者は3人で、前年と比較すると2人減少しており、死者の発生原因別では、逃げ遅れによるものが2人、着衣着火によるものが1人となっています。

年齢別では、65歳以上の高齢者が2人、65歳未満が1人となっています。

イ 火災による負傷者は56人で、前年と比較して8人減少しています。



## 2 救急概要

### (1) 救急出場件数

令和5年中の救急出場件数は、87,592件で過去最多の出場件数となりました。

令和4年に比べ2,816件(3.3%)増加し、1日平均出場件数は240件で約6分00秒に1件の割合で救急出場したことになります。

### (2) 搬送人員

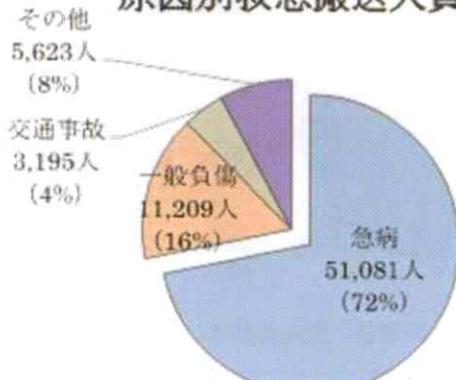
ア 搬送人員は、71,108人で令和4年に比べて3,923人(5.8%)増加し、市民の21.7人に1人を搬送したことになります。

イ 原因別の搬送人員は、急病が51,081人(71.8%)、一般負傷者が11,209人(15.8%)、交通事故が3,195人(4.5%)となっており、この3種の原因で全体の92.1%を占めています。

なお、搬送人員のうち入院を必要としない「軽症者」は、37,672人で全体の53.0%となっています。



#### 原因別救急搬送人員



救急車の適正  
利用を！！



### (3) 令和5年中の特徴

救急出場件数は、3年連続で増加しており、搬送人員を年齢別割合でみると、65歳以上の高齢者は55.8%で、前年から0.1ポイント減少しました。その他、成人（18歳から64歳）は34.1%で、前年から0.3ポイント減少、少年（7歳から18歳未満）は3.3%で前年から0.2ポイント増加、乳幼児（7歳未満）は6.9%で、前年から0.3ポイント増加しました。

### (4) 年末年始の餅による事故

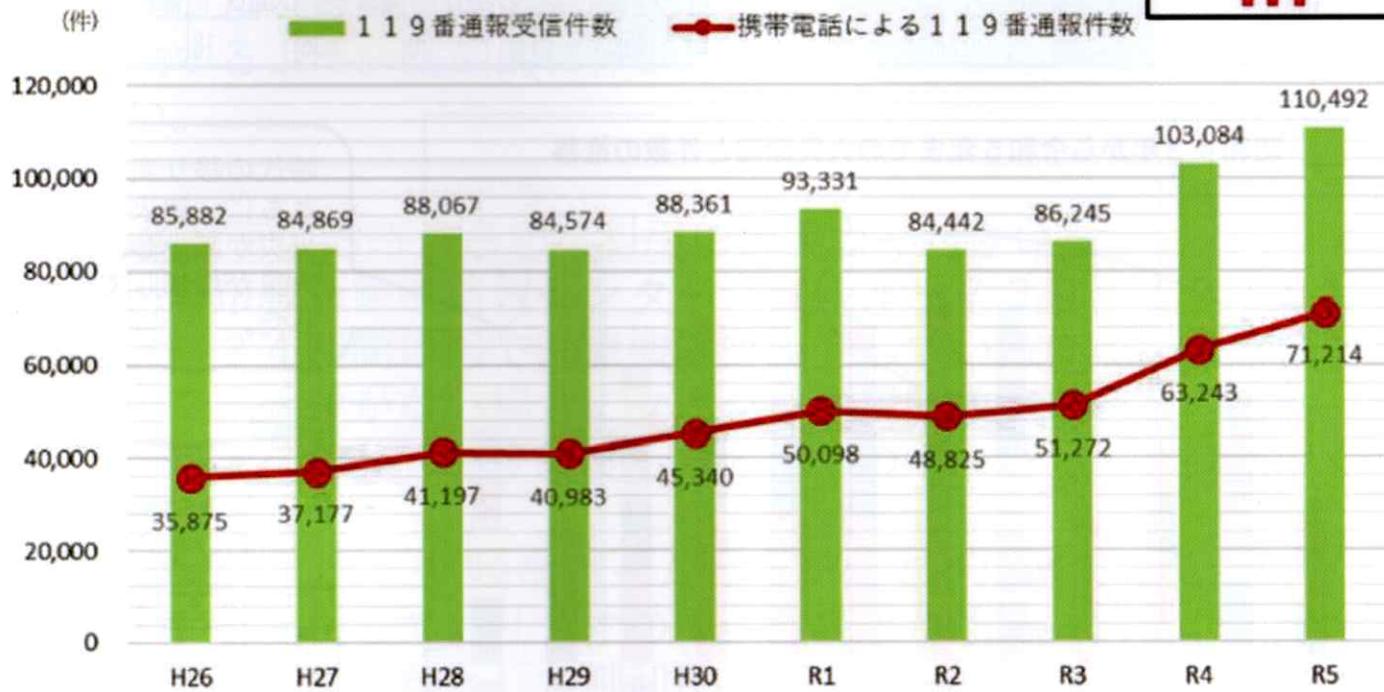
年末年始（令和5年12月29日から令和6年1月3日まで）に餅を喉に詰まらせて救急搬送された件数は1件で、前年同時期は2件となっています。

## 3 119番通報受信状況

- 令和5年中の119番通報受信件数は、110,492件で、前年と比べて7,408件（7.2%）増加し、1日平均の受信件数は、約302.7件（4分45秒に1件）でした。
- また、携帯電話による119番通報は、71,214件（全体の64.5%）で、前年と比べて7971件（12.6%）増加しました。



過去10年間の119番通報受信状況



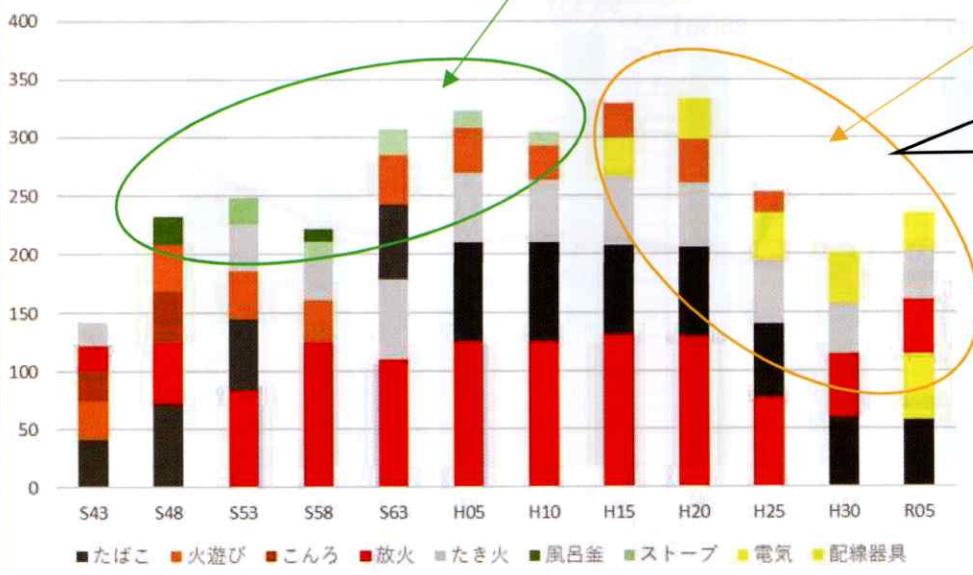
## 4 火災の原因及び件数の推移について

- 昭和43年、48年頃は、放火の件数は徐々に増えており、昭和51年から令和2年までは放火が1位、2位を独走していました。
- 昭和から平成初期は、時代を反映してストーブや風呂釜などの裸火を使用する機器を原因とした火災が多い傾向にありました。
- 平成中期からは裸火に代わるエネルギーである電気に関係した火災が増加しており、令和5年には電気機器と配線器具を合算すると火災原因の第1位になります。
- しかし、こんろやたばこなどは常に火災原因の上位であり、電気も使用方法や管理に起因するものが多いので、火災を減らすためには皆様一人ひとりが火や電気を取り扱う際の注意を怠らないことが重要となるでしょう。

昭和43年から令和5年までの火災原因及び件数の推移

順位	項目	S43	S48	S53	S58	S63	H05	H10	H15	H20	H25	H30	R05
1 原因	たばこ	たばこ	放火	放火	放火	放火	放火	放火	放火	放火	放火	たばこ	たばこ
	件数	41	71	83	124	110	125	125	131	130	77	59	57
2 原因	火遊び	放火	たばこ	火遊び	こんろ	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	放火	電気機器
	件数	33	53	62	37	69	85	85	76	75	63	55	57
3 原因	こんろ	こんろ	火遊び	こんろ	たばこ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	放火
	件数	27	45	41	35	63	60	53	60	56	55	44	47
4 原因	放火	火遊び	こんろ	ストーブ	火遊び	火遊び	火遊び	電気	火遊び	電気	配線器具	こんろ	
	件数	21	39	40	15	43	38	30	32	37	40	22	42
5 原因	たき火	風呂かまと	ストーブ	風呂かまと	ストーブ	ストーブ	ストーブ	火遊び	電気	火遊び	電気機器	配線器具	
	件数	20	24	22	10	22	15	11	30	36	18	21	32

昭和43年から令和5年までの火災原因と件数の推移



時代の移り変わりとともに、裸火による火災が減少し、電気火災が増加してきました。



## 5 消防局からのお願い

(1) 電気火災（電気機器、配線器具、電灯・電話等の配線、電気装置に起因する火災）が、近年、急増しています。「電化製品は、取扱い説明書どおりに使用する。」、「電気コードが傷んでいる場合や、プラグが変形している場合は使用を控える。」、「プラグはしっかりと差し込んだ状態で使用する。」等の基本的な対策をお願いします。

(2) たばこによる火災の多くは、吸い殻が山盛りになるほどたまたま灰皿に吸い差しを入れたり、ポイ捨てをするなど喫煙者のマナーに起因しています。吸い殻は水を入れた灰皿で確実に消火する、灰皿に吸い殻をためない、ポイ捨てはしないなど、日頃から喫煙マナーを守るようお願いします。

(3) 放火は、2年連続で減少しましたが、依然として火災原因の上位となっています。敷地内やごみ集積場等、生活に身近な場所は放火犯に狙われますので、家の周りに燃えやすいものを置かない、ごみは決められた日の朝に出すなど、「放火されない環境づくり」に御協力をお願いします。

(4) 住宅火災による被害の軽減に向けて、「住宅用火災警報器」の設置及び維持管理をお願いします。いざというときに正しく作動するよう、定期的に作動確認を行うことを習慣づけてください。

(5) 救急車の適時・適切な利用に御協力ください。

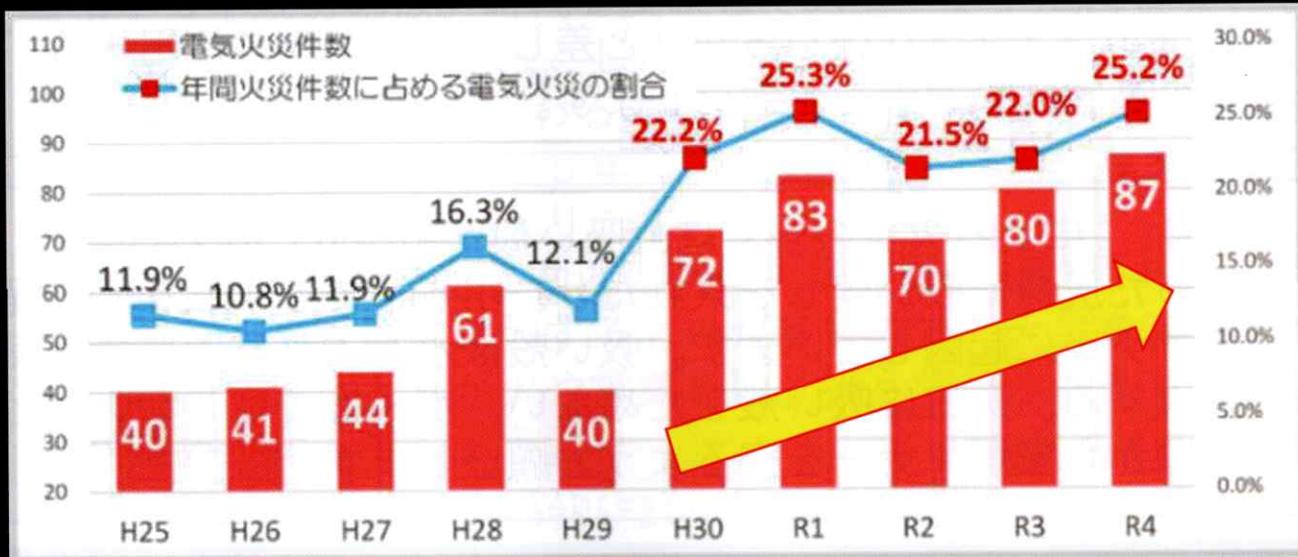
川崎市救急医療情報センター（044-739-1919）では、24時間体制で医療機関を紹介しているほか、医療機関への交通手段がない場合にタクシーや民間救急車を案内する「サポート救急」という制度もありますので、こちらも御活用ください。

併せまして、川崎市ホームページにて「川崎市救急受信ガイド」を提供しておりますので、救急車の適時・適切な利用をする際の判断材料として御利用くださいますようお願いします。

# 「電気火災」が多発しています！

## 電気火災は近年、**増加傾向**

電気火災とは、その名のとおり、電気機器などが原因で発生する火災ですが、近年、増加傾向となっています。



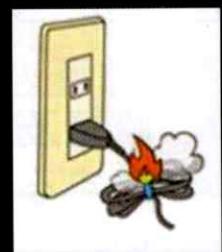
## 主な電気火災の発火原と防ぐポイント

川崎市HPの「電気火災が多発しています」も御覧ください。⇒ <https://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000152094.html>



### ■ 1位 電気コード (78件)

- ・電気コードを束ねたり、重いものの下敷きになっている状態で使用しない。
- ・電気コードが傷んでいる場合は使用を控える。



### ■ 2位 電池 (69件)

- ・リチウムイオンバッテリーに衝撃が加わることによって火災になることがあるので。日頃から取扱いに気をつける。
- ・電池を使用する製品は、取扱説明書どおりに使用し、純正品のバッテリーを使用する。
- ・異常がある場合は使用をやめて、メーカーや販売店に相談する。



### ■ 3位 プラグ (68件)

- ・定期的にプラグを抜いて、付着したほこりなどを掃除する。
- ・プラグはしっかりと差し込んだ状態で使用する。
- ・プラグに変形がある場合は使用を控える。

